

羽毛ふとんの 品質の色々



羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。
羽毛ふとんのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。
今回は、羽毛ふとんの品質をさめる様々な要素について…。

羽毛ふとんの値段は“ピンキリ”。では羽毛ふとんの価値は、何で決まるのでしょうか、同じふとんなのに、なぜ大きな価格差があるのでしょうか、中の羽毛は見られないからこそ、選び手が品質を見極める目や知識を持つことが大切です。

羽毛ふとんに使われる羽毛は、食用ダックとグースの副産物で、ポーランド、ハンガリー、ブルガリア、フランス、アメリカ、イギリス、ロシア、ウクライナ、中国といった国々がおもな産地です。水鳥の種類より、飼育期間やエサ、育った環境が羽毛の質を左右します。寒い地域で育った水鳥は、体温を逃がさないように羽毛が成長し、羽毛自体の質も良くなります。また定期的にきちんと良質なエサを食べていることや、羽毛が十分に育つまで飼育期間が設けられていることも、高品質の羽毛を育てる重要なポイントです。例えば、世界最大の羽毛の産出国、中国は広大で南の温かい地域から北の極寒の地まで有し、羽毛の品質にばらつきがあるのは事実ですが、北の寒い地域の羽毛は良質で、中でも親鳥の羽毛は最高の品質といえます。昨今、中国というだけで敬遠されがちですが、鳥の数が多いという事は親鳥の数も多く高品質の羽毛もそれだけ存在するのです。この質の高い原羽毛を羽毛ふとん用の高品質な原料に仕上げるには洗浄技術が大きく関わってくることは言うまでもありません。

洗浄は羽毛の質を決める物理的要素です。上質な羽毛を仕入れても、洗浄過程で壊れてしまっは元も子もありません。羽毛の特性を損なうことなく清潔に洗い上げるには、高度な技術と経験が必要です。大量の軟水を惜しまずたっぷり使う。繊細な羽毛を傷めないよう物理的圧力をかけずに洗い上げる。そして、汚れの成分を熟知した洗剤の開発。これらが揃って初めて、最適な洗浄作業が可能になります。

上質な羽毛ふとんは、側生地にも工夫があります。側生地の質も、羽毛ふとんの価値を決める大きな要素です。側生地は、やわらかいことが基本。ゴワゴワした生地では体になじみませんし、せっかくの羽毛の風合いが台無しになってしまいます。また、含まれるダウンとフェザーの割合によって、適切な側生地も変わってきます。フェザーが多い場合、羽根が飛び出しやすくなるので、生地を丈夫にする必要があります。糸を太めにして目の詰まった織り方をしていきます。反対にダウンが多い場合、そこまで生地の目を詰める必要がないので、やわらかい糸を使った、よりしなやかな生地を使うことができます。いずれにしても、糸の太さや織り方を工夫して、やわらかと丈夫さのバランスに配慮しながら、羽毛に合った生地を作っていくことが大切です。上質な羽毛ふとんは、側生地1枚をとってみても、非常にち密に計算されているのです。



日本羽毛製品協同組合

日羽協ニュース

〔編集発行〕日本羽毛製品協同組合

〔事務局〕〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

羽毛製品講演会を開催いたしました。



日本羽毛製品協同組合（日羽協）では、平成28年12月1日（木）に、第8回目となる羽毛製品講演会を開催いたしました。当日は組合員・賛助会員・関係団体57社から99名が来場しました。開会に際

し、日羽協理事柳場弘より挨拶があり、続いて、本年9月1日に立ち上げました「産地対策委員会」について活動報告を行いました。

羽毛製品講習会を開催いたしました。【羽毛ふとんの知識啓発事業】

羽毛製品講習会（福井県鯖江市）



平成28年9月21日(水)福井県鯖江市消費生活センターにて、羽毛製品講習会を実施いたしました。会場となった鯖江市嚮陽会館には、一般消費者の方が30名集まり、DVD放映、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の佃光明氏、立花功氏による講習の後、質疑応答が行われました。

後日、鯖江市消費生活センターより、羽毛ふとんの選び方やお手入れについて、受講者の皆様にお役立ていただけたと、お礼状を頂戴いたしました。

羽毛製品アドバイザー派遣を行っています。

日羽協では、消費者関係機関等において、消費者の皆様を対象として実施されている消費者講座などに、「羽毛製品アドバイザー」を派遣し、「羽毛製品の正しい知識、選び方、取り扱い方」などの疑問にお答えすると共に、羽毛製品を正しくご理解をして頂く活動を実施しており、既に参加された受講者の方々から好評頂いておりますので、是非ご活用くださいますようご案内申し上げます。

羽毛製品講習会（兵庫県尼崎市）



2月消費生活講座

羽毛製品に強くなる

～見て、触って、実感！～



近年身近になった羽毛製品について学びます。選び方から、お手入れ方法まで専門家がアドバイスします。

日時 平成29年

2月17日(金)

13:30～15:30

講師 羽毛製品アドバイザー
(日本羽毛製品協同組合)

場所 尼崎市立消費生活センター
2階視聴覚室
尼崎市南武庫之荘3丁目36-1
(阪急武庫之荘駅から徒歩3分)

募集人数 市内在住50名

申込方法 2月6日(月)から消費生活センターへ
電話か来所でお申込みください。先着順に受付します。
☎ 06 6438-4194

〈主催：尼崎市(担当課：生活安全課) 企画：尼崎消費生活協会〉

平成29年2月17日(金)兵庫県尼崎市立消費生活センターにて、羽毛製品講習会を実施いたしました。会場には、一般消費者の方が30名集まり、DVD放映、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の佃光明氏、小林裕三氏による講習の後、質疑応答が行われました。

質疑応答では、羽毛製品のお手入れ方法や、羽毛ふとんのリフォームについて多くの質問が寄せられ、後日尼崎消費生活センターより、皆様が正しい知識を得られたと、お礼状を頂戴いたしました。

1. 主な講座内容

羽毛製品(羽毛ふとん、ダウンウェア関係)の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般

2. 講師派遣に関する費用及び人数

講師派遣に関する費用は日羽協が負担致します。但し、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約20名以上。講演時間は、90～120分程度です。

3. 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じアドバイザーを派遣致します。各消費者関係機関での通年行事として、定期的な講演も承ります。 電話 03-5649-2285

羽毛ふとんのリフォームについて

寒い冬の間に大活躍してくれた羽毛ふとん。春になれば一旦役目を終え秋まで押し入れにしまわれま
す。しかし、しまう前に一度冬の間頑張ってくれた羽毛ふとんをご確認ください。羽毛ふとんの膨らみが
減ってきた、側地がほころびている所がある等がありましたら羽毛ふとんのリフォームを検討してみては
いかがでしょうか。

羽毛ふとんのリフォームとは

羽毛ふとんは、他のふとんに比べて耐久性が高い寝具です。お使いになる間に側地が劣化してきます
が、中の羽毛に多少かさの減少はあっても十分に再利用できます。このため、側地を交換し、必要な
場合は羽毛の洗浄と足し羽をすれば、お手持ちの羽毛ふとんを新しい羽毛ふとんによみがえらせるこ
とができます。

羽毛ふとんのリフォームは心配？

各地で行っている羽毛製品講演会をはじめ私達日羽協のもとに、リフォームについてのお問い合わ
せも寄せられます。そのいくつかをご紹介します。

「仕上がりの具合が分からない」

羽毛ふとんのリフォームは古くなった羽毛ふとんを預けて、工場で解体して新しい側地に仕立てるため仕上
がりの様子を確認するのは困難です。帰ってきたふとんの中の羽毛が変わっていないか、新しい側地の品
質、羽毛ふとんの仕立て方法等の把握も困難です。

「どの程度の金額が妥当なのか分からない」

不当に高額な値段は避けたいですし、安過ぎるのも品質面で心配です。

「どのくらいリフォームに時間がかかるのか分かりにくい」

預かってから工場に送られるので一定の日数が必要です。

安心できるリフォームは認定工場で

日本羽毛製品協同組合では、安心してリフォームをご利用いただけるよう「工場認定制度」を導入して
います。羽毛ふとんリフォームを正しく実施するための設備があるか、個別の顧客毎にお預かりから
お届けまでが分別管理されているか、解体した側地や工程で発生する廃棄物が正しく処理できてい
るかなどを審査し、組合が定めた基準に達している事業者認定証書を発行しています。なお、認定
事業者については「リフォーム認定工場一覧」のページをご覧ください。

<http://www.nichiukyo.org/overview/reform/>

日羽協 リフォーム

検索

羽毛ふとんのサイズについて

羽毛ふとんには、様々なサイズがあり、(一社)日本寝具寝装品協会ふとん表示規定集により、サイズ表
示が定められています。ベッドやマットレス、敷きふとんのサイズ、使用する人数と合わせ、最適なサイズ
をお選びください。

掛けふとんのサイズ(単位:cm)

幅	長さ	略号と呼称
150	210	SL シングルロング
170	210	SDL セミダブルロング
190	210	DL ダブルロング
210	210	QL クイーンロング
230	210	KL キングロング

(一社)日本寝具寝装品協会ふとん表示規定集より

ベッド・マットレスの寸法(単位:mm)

幅	長さ
820	1950/2050
980	1950/2050
1100	1950/2050
1200	1950/2050
1400	1950/2050
1520	1950/2050

JIS S 1102より抜粋

Q.一般的な羽毛ふとんのサイズの選び方は？

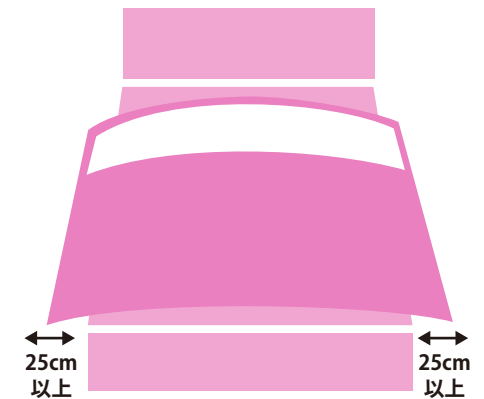
A.ベッドを使用の場合、
ベッド幅プラス50cm以上が目安となります。

Q.幅1520mmのワイドダブルと言われる ベッドを使用しています。2人で寝る場合 どのサイズがよいですか？

A.2人の隙間を埋めるやや大きめのサイズをおすすめします。
190cmより余裕のある210cmの羽毛ふとんをお選びください。

Q.セミダブルベッドに1人で寝ています。 この場合はセミダブルの羽毛ふとんがよいですか？

A.シングルサイズでも大丈夫です。
ベッドからふとんがずり落ちてしまう心配がなくなります。





日本の寝具の歴史 ②

日本とベッド

日本人がベッドになじむようになったのは、明治以降に西洋文明がもたらされてからのことと考えられています。しかし、歴史をたどってみるとこれは意外にも古代あるいはそれ以前から日本にベッドがあったことが分かります。

一番たしかな証拠は正倉院に現存する聖武天皇の木製ベッドがあります。

高さ39センチ、長さ233センチ、幅118センチの四脚の台で、これを二つ置き並べて、その上に一杯の大きさのタタミをマットにし、錦のシーツで覆い、綿で包んだ枕、あしぎぬ 絨のフスマをセットにした立派なベッドでした。ベッドの囲いを屏風でかこい、上から張とよぶカーテンを垂らして全体を覆っていたことが想像されています。

天皇や皇后がこれに似たベッドで休まれていることは平安朝以降にははっきりしていて、御帳台みちょうだいと呼んでいました。今でも現物が現存していて京都御所の清涼殿の中央正面に配置される「昼御座」ひるのおましの背後にあります。高さ約60センチの漆黒塗りの台で、上面に畳を二帖置き四隅から柱を立て、柱の上一杯に天井を張り、周りに帳が垂れたもので、明らかに聖武天皇のベッドの伝統を引いています。

また、豊臣秀吉も大阪城内の天守閣の中に

ベッドを設えた豪華な寝室を作っていました。ベッドの高さは45センチほど、長さは約2メートル、幅120センチほどで枕のあたりは黄金のほり物で飾り、赤い羅紗らしゃをシーツ代わりに使った派手なものでした。

こうした実例はほかにも二三あげることが出来ますが、しかしどちらかという日本の習慣の中では特殊な例と考えたほうがよいでしょう。それよりも太古いらいの竪穴式の住居ではベッドが使われていたと考えられています。そもそも竪穴式とは、地表に屋根をおくだけでは、屋内で立つ空間が確保しにくいところから案出された方法で寝る場所には高い空間は不必要です。極端な例は今日の寝台車のベッドで、あんな狭い空間に二段式、三段式のベッドを設えても眠ることは可能です。ですから竪穴式の住居の内部で、人間が立った時に不自由のない高さを必要とする部分を中央部にとっておけば周囲にはむしろベッドを設置した方が便利です。よく竪穴式の住居では地べたに藁や毛皮などを敷いて生活していたように述べた書物をみかけますが、これももとより想像にすぎません。しかし日本のような湿度の高い土地柄を考えると、地表に坐ったり寝たりすることは決して快適なことではありません。それに

ヘビやムカデのたぐいが大手をふって往行している自然の風土に身をおくとしたら、地表にベッドを設えるくらいの才能はだれでも思いつく生活の知恵と考えたほうがずっと自然です。

今日でも広い土間を屋内にもっている農家が残っていますし、人が寝る空間は必ず床張りになっています。こうした生活の実態をふまえて考えると、太古いらいの竪穴式住居ではベッドに寝るのが当たり前であったとみておくべきでしょう。しかし、弥生時代からあとになってくると、柱を立てる家が次第に普及して一般庶民も平家に住むのが当たり前になってきます。ところが中世の絵巻物などをみると一般庶民の住宅は夜寝るだけの空間をかるうじて確保した程度のものが多くなり、極端なものでは畳二帖だけという最低空間も珍しくありません。室町時代の「福富草紙」ふくとみのそうしという絵巻物にそうした実例が描かれていますが、入口のたたきで履物をぬぎ、老人夫婦が畳二帖の室内で一つ着物にくるまって寝ています。これをみると同じく畳二帖を単位にした天皇の御帳台が連想されます。

「起きて半帖　ねて一帖　天下とっても二帖半」という俗諺ぞくげんがありますが、畳一帖は一人の寝る空間です。この畳を二帖とっておくということは家族の数の最低の空間が確保されたことになります。人間のスマイとは即ちネグラに他ならない

とすれば、畳二帖の空間があれば良いです。天皇や皇后は畳二帖の寝所を建物の内部に設置しましたが、一般庶民は同じ畳二帖の空間をそのまま家にしてしまった、こう考えてくると、なぜ日本人が家の入口で履物をぬぐのかという疑問が解けてきます。

地球の上にはたくさんの国がありますが、家の入口で履物をぬいだりはいたりする民族は日本人くらいです。西洋人は外でも中でも靴をはいているし、南方へいくと外でも中でもハダシのままの生活が営まれています。大抵の民族はこの二つのうちのいずれかに属しますが、日本人だけがなぜ家の入口に関所を設けたのかは、長い間謎でした。絵巻物の中で畳二帖の家の入口でちゃんと履物をぬいでいる場面をみると、これは寢床に上がるマナーに他ならないことが分かります。

つまり、日本の家というものはベッドに屋根をしつらえたものであったと考えれば良いわけで、それが次第に平面を拡大して今日のような住宅になり、住宅の中に寝所以外の生活をもちこむようになって空間が複雑化してきた、けれども西洋人でもベッドに上がる時には靴をぬぐのと同じ原理から、日本人は家の玄関で履物をぬぐ習慣を伝えてきたにすぎないのです。ですから角度を変えてみると、私たちは実に巨大なベッドに住んでいるといってもいいわけです。